

基 調 講 演

テーマ 最近の水災害の特徴と今後の減災対策

講師 大学院工学研究科 社会環境システム専攻
教授 河原能久



略歴 1988/04/01 東京大学工学部土木工学科専任講師
1988/07/01 ドイツ, カールスルーエ大学流体力学研究所客員研究員
1989/07/01 東京大学工学部土木工学科助教授
1998/04/01 建設省土木研究所河川部主任研究員
2000/04/01 香川大学工学部安全システム建設工学科教授
2004/10/01 広島大学大学院工学研究科社会環境システム専攻教授

研究活動 etc

- 1) 都市域での氾濫水害軽減のための統合解析手法の構築
- 2) 洪水流 / 非定常開水路乱流の 2 次元 / 3 次元解析

講演内容

最近, 我が国では豪雨災害や高潮災害が頻発している。社会の少子高齢化や社会基盤施設整備への財政投資の減少が続く中で実効性を増す治水対策が求められている。地域の防災力を災害抑止力, 災害軽減力, 災害対応力の総合と捉え, 発災を外力が地域防災力を上回った結果と考えると, 水害の原因は次のように分類される。計画を越える外力の発生(今後の地球温暖化による豪雨の増加や海面上昇の進行により, さらに深刻化), 土地利用の変化による災害抑止力の劣化, 避難システムの不備や水防体制の弱体化による災害軽減力の低下, 地域の防災意識の低下, 共助体制の弱体化による災害対応力の低下等である。また, アメリカでのハリケーン・カトリーナ水害のように, 巨大水害や複合災害の発生を考える必要もある。したがって, 今後の水害対策は, 災害抑止力の劣化を防ぎながら災害軽減力と対応力の増強を確実に進めること, あるいは, 水害を予測し地域社会の被害の最小化と早期回復をはかる対策を進めることが中心となる。